

# 令和2年度和光市立広沢小学校

## 学校評価保護者アンケートのための資料

### 1 学校の組織運営について

(1) 学校は、学校教育目標達成に向けて、組織的に取り組んでいる。

学校教育目標 「ひろい心で さわやかに」

目指す学校像

- (1) 学校・地域・保護者が子供たちのために連携し、問題解決を推進する学校
- (2) 教職員が「ほうれんそうのおひたし」の精神を持ち、連携して働く学校
- (3) 児童がソサエティー5.0時代を生きる力を学べる学校

目指す児童像

- (1) 主体的に学ぶ児童
- (2) 対話的・協働的に学ぶ児童
- (3) 深い学びを体現できる児童

本年度は、新型コロナ対応と新しい学習指導要領に即した「新しい学び」の推進の両立が必要な年でした。まず、新型コロナ対応では、昨年度3月からの臨時休校時には、保護者の皆様にも大変、ご心配をおかけしました。先の見えない不安の中、市全体としての動きに対応する必要もあり、なかなか思い通りの対応はできない状況もございました。そんな中でもビジネスツール「SLACK」を学校・保護者間の双方向連絡ツールとして活用する広沢小の提案が、市全体の取り組みとして採用され、休校中は学校からの課題配信に、再開後は児童の学びの様子の配信に活用できたことは、学校・保護者間の連携のためにも良かったのではないかと感じています。

「ほうれんそうのおひたし」(報告・連絡・相談・怒らない・否定しない・助ける・指示する)については、教職員が持つべき根本の理念として、繰り返し職員に周知を図りました。教職員の指導・授業の様子を観察していますと、この理念もかなり浸透してきたのではないかと感じています。

「Society 5.0時代を生きる力を学ぶ」という意味では、新学習指導要領に沿った「新しい学び」の推進が第一になります。次の教育活動の項目と重複するため、ここでは簡単に触れるだけにしますが、次年度から始まる一人一台タブレットに対応した授業推進のための土台づくりができた一年だったと感じています。

(2) 学校は、地域の良さを生かした特色ある学校づくりを推進している。

広沢小の特色は年間の転出入者が100名を超える全国的に見ても珍しい学校という点にあります。転入してきた児童がすぐに打ち解けるためにも、子供たちが互いに多様性を認め合い・触れ合う体験を重視し「縦割り班活動」「学級会活動」「話し合い」に重点をおいた学校づくりを進めています。ただ本年度はコロナのため縦割り班活動の多くが制限されてしまいました。そん

な中でも、コロナ対応しながらの縦割り班活動・縦割り落ち葉広い等を実施できました。学級会活動・話し合い活動では、広沢小の子供たちは上手な話し合いができるようになっていきます。私は、そこいらの大人より広沢小の子供たちの方が、みんなで話し合って解決する事は上手なのではないかと思っています。

### (3) 学校は、教育課程が適切に組み立てられ、効果的な教育活動をおこなっている。

前述しましたが、次年度から児童用タブレット一人一台体制の授業がスタートします。こうしたことも踏まえ、本年度は「Society5.0時代を生きる力を育むための新しい学びの推進」と「主体的・対話的で深い学びの推進」に重点を置きました。

まずICT教育推進としてプログラミング授業を各学年で実施しました。授業の様子はSLACKで配信しています。またパナソニック教育財団より実践研究指定をいただき、Ipad20台・複数のアンプラグドプログラミング教材を購入しました。今はコロナ対応のためプログラミングルームを使用した共同学習は実施できない状況ですが、コロナが収まり次第、子供たちが自由にプログラミングに触れ、学び遊べる空間の活用に着手します。

また「主体的・対話的で深い学び」の推進に向け、本年度から「目指す児童像」を「知・徳・体」から「主体的・対話的・深い学び」の三観点に変更しました。日々の授業から授業改善をすため、新しい学力向上プランも作成しました。一人一台タブレット時代に向けた土台作りができたのではないかと思います。



## 2 確かな学力の定着に向けて

### (1) 学校は、児童に基礎・基本的な学力を身につける方策を取っている。

本年度は全国・県の学力学習状況調査は実施されませんでした。そのため、具体的な数値としての結果は見えない状況ですが、日々の授業の様子を見る限り、コロナ下とはいえ、広沢小の子供たちの学力の低下は見られていないと感じます。確かな学力という観点では、漢字・計算等の基礎学力の定着が大事です。まず国語では、漢字検定を本年度も実施します。また明星大学の白石範孝先生を講師として招聘し、国語科授業の進め方について指導力向上研修を実施しています。算数では、少人数指導担当教員・学力向上担当教員を中心に少人数指導を実施、個別対応しながら学力の底上げを図っています。

### (2) 学校は、体験活動や情報機器の活用など、児童の学ぶ意欲を高める活動に努めている。

広沢小では、狂言体験・生け花体験等、多くの体験型学習を実践してきました。ただ本年度はコロナの影響でいくつかの例年実践してきた体験学習が実施できなかったことは大変残念でした。今後も様々な体験型学習を推進していきます。

情報機器という観点では、広沢小では各教室に大型液晶TVを導入すると共に、市から予算化された



デジタル教科書に加え、独自予算を組み、算数・国語・理科・社会の四教科全てのデジタル教科書を使用しています。教職員のデジタル教科書使用率も年々向上し、本年度はデジタル教科書を使った授業は、日常的に実践されていました。

**(3) 学校は、学年に応じた学習ルールを定めるなど、学習規律の確立を図っている。**

広沢小の学習のルール（チャイム着席・授業準備等）は、全体的には良く履行されています。どの学級でも、子供たちは落ち着いた様子で授業を受けていました。大切なのは、「凡事徹底」と「おひたし（怒らない・否定しない・助ける・指示する）」であることを教職員には周知しています。この両輪があってこそ、子供たちは安心して落ち着いて授業を受けられます。もちろん、個別指導が必要な児童もいますので、そういう場合は、組織対応を行い、担任が一人で抱え込まず、学校全体で対応するようにしています。

**3 規律ある態度、豊かな心の育成に向けて**

**(1) 学校はいじめや暴力を見逃すことなく、共通理解のもとに指導をしている。**

広沢小学校では、いじめの初期段階での発見・初期対応を徹底すべく、個別の生徒指導案件を確実に記録し、継続指導・組織的対応ができる体制をつくっています。4月にはいじめの未然防止と初期対応に向けた手紙を配布させていただきました。また積極的に保護者と報告・連絡・相談等を行い、学校と保護者が連携して対応してきました。その他にも、いじめアンケートの実施、人権教育の推進など、多面的にいじめ・暴力防止の取り組みを実践しています。

**(2) 学校は、子供たちが生活のルールやマナーを進んで守れるように指導している。**

先ほどの学習規律同様、生活においても、しっかりとルールを守って子供たちは生活できています。ただ今年はコロナの影響もあり、大きな声であいさつというのは難しい所もありました。決してあいさつが疎かになったわけではないので、コロナが収まれば、子供たちは元気な挨拶をしてくれるのではないかと期待しています。その他「マスク・手洗い・エチケット」等をしっかりと遵守して生活していました。保護者の皆様のご協力にも感謝申し上げます。



**(3) 学校は、道徳の時間をはじめ、全教育活動を通して規律ある態度を育てている。**

広沢小学校では、道徳の時間と学級会活動の連携を重視しています。道徳の時間では様々な道徳的価値について学びます。それは大切なことなのですが、ともすれば「建て前的な話し合い」になりがちです。私自身、道徳で「助け合い」を児童が学んだ直後の休み時間に児童同士の喧嘩が発生するなど、「それって意味があるのかな？」という授業を過去に見てきています。そうならないためには、「道徳で学んだ道徳的価値を、実際の行動として学級会活動の中で実践する」ということが大切です。低学年の子供たちと触れ合いたいので読み聞かせ会をやろう等、学びと実践を組み合わせ、生きた学びにしていこう工夫しています。

#### 4 健康・体力の育成に向けて

(1) 学校は、体育の授業や体育朝会を通して、児童の実態に応じた体力の向上を図っている。

本年度は新体力テストも中止になりました。またコロナ対応のため、多くの運動が制限され、体育朝会も中止を余儀なくされています。そういう意味では、本年度、最も懸念されることの一つが児童の体力の低下です。残念ながら効果的な対策が難しい部分です。そのような中ですが、授業再開後の分散型休み時間の設定や、運動会に変わるスポーツイベントの実施等、コロナ下でも実施できる運動を実践しました。

(2) 学校は、食育する意識を高め、望ましい食習慣の育成を図っている。

広沢小学校では、毎日おいしい給食を学校栄養士・調理員さんたちが一生懸命つくってくれています。食の安全・アレルギー対応はもちろん、地元の食材を使った給食の提供、埼玉県郷土料理の提供、季節に応じたアレンジ給食など、様々な楽しいイベントを実施しています。残飯発生率は低く、児童の望ましい食習慣づくりに大きく貢献していると思います。また1年生トウモロコシ皮むき授業では、実際の調理の様子を動画配信しました。子供たちも調理員の皆さんに感謝する気持ちを持ってたのではないかと思います。



トウモロコシができるまで

(3) 学校は、健康な体づくりのため、家庭と連携した保健指導を行っている。

この項目では、本年度の取り組みとしては「コロナに感染しないための生活習慣づくり」につきと思います。「マスク着用」「手洗い」「換気」「ソーシャルディスタンス」「エチケット」「体温測定」等の生活様式を徹底し実践することで、なんとか校内でのクラスター発生を防ぐことができました。今後も予断を許さぬ状態が続きます。保護者の皆様にも、ご家庭での生活様式についてご協力をお願いいたします。



#### 5 安心安全な学校生活に向けて

(1) 学校は、事故防止のため施設・設備の安全面の配慮をしている。

月に一度の教職員による安全点検に加え、今年も保護者・地域の方による安全点検を実施しました。本年度は中庭の保護ラバー接続部分の隙間を埋め、転倒による怪我を予防、段差のある出入口にスロープ設置等を行いました。現在、全ての二階以上の窓には転落防止ストッパーを設定してあります。



**(2) 学校は、不審者の侵入や交通事故など、事故防止に備えた指導と手だてを行っている。**

例年実施している不審者侵入を想定した避難訓練は、本年度は三学期に教職員で実施予定です。また西大和団地の工事については、地域・保護者の皆様より情報提供をいただき、なんとか事前対応ができました。ありがとうございました。

本年度より新設した「保護者の会・安全対策費」の使い道にして保護者の会執行部の方々と協議させていただき、こちらについては予算を次年度に繰り越すことにしました。簡易で安いダミーの防犯カメラを購入することも検討しましたが、どうせなら多少高くてもしっかりとした防犯カメラの増設をしたいということになりました。

登下校の際に児童が使用する横断歩道の安全確保については、引き続き行政への働きかけを実施していきます。朗報が皆様に届けられるよう対応しています。

**(3) 学校は、地震や火災などを想定した訓練を計画的に実施し、効果的な防災教育をおこなっている。**

こちらの項目もコロナの影響を直接受け、なかなか計画通り進まなかったところです。そんな中ですが、ショート避難訓練等、できる限りの訓練を実施しました。また引き渡し訓練については、新一年生のみを対象として実施しました。

## **6 保護者・地域との連携に向けて**

**(1) 学校は、学校だよりやHP、行事公開等、教育活動の様子や成果を保護者・地域にわかりやすく伝えている。**

本年度はSLACKにて、子供たちの様子や教育活動について配信しました。一年間で配信した動画の数は100を超えます。授業参観・懇談会が実施できず、様々な行事も中止になる中でしたが、新しい試みで対応できたのかなと思っています。

**(2) 学校は、保護者・地域の意見や要望を教育活動に生かし、開かれた学校づくりに努めている。**

昨年度の保護者アンケートでいただいたご意見には、可能な限り一件ごと対応をしました。本年度の保護者アンケートでも、ご意見に対し一件ごと対応を実施する予定です。またSLACKを活用し、皆様からいただいた、ご報告・ご意見等をできるだけ速やかに対応しました。

**(3) 学校は、保護者・地域と連携し、その教育力を活用した教育活動を行っている。**

広沢小の課題として、各自治会と学校の連携の弱さということがありました。そこで着任以来、学校運営協議会に各自治会の代表の方にご参加いただくこと、自治会の枠を超えたイベント（防災大鍋会）の実施、そして次年度にはスタートする広沢小学校区の地区社協の設立に向け、和光市社会福祉協議会の皆様と連携する等の方策を行ってきました。

本年度のコロナ影響のため、計画通りにいかなかった部分（大鍋会の中止・保護者の会と学校が実施するイベントの中止等）はございましたが、今後とも、地域・保護者の皆様との連携を第一に考え、学校経営を実施していきます。